

フィブリノゲン製剤を使用した可能性のある方へのお知らせ

C型肝炎ウイルス検査のおすすめ

平成 29 年 3 月 1 日
鶴見大学歯学部附属病院長

C型肝炎の感染原因として、輸血のほか、フィブリノゲン製剤などの血液製剤の投与による、いわゆる薬剤肝炎の可能性が考えられます。

フィブリノゲン製剤は手術の際の止血剤として幅広く使用された血液製剤で、当院でも昭和58年から昭和63年1月まで使用しておりましたが、それ以降また、緊急安全性情報が配布された昭和63年5月以降は一切使用していません。

薬害肝炎であることが確認された場合は、国による救済制度が適用されますので、感染の可能性が考えられる方は肝炎の検査を受けていただくことをお勧めいたします。

< 対象となる患者様 >

昭和59年6月～9月に当院口腔外科外来において、
歯根端切除術を受けられた方に使用された可能性があります。
お心当たりのある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

鶴見大学歯学部附属病院
〒230-8501
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
電話 045-580-8503
FAX045-581-0024
問い合わせ先:庶務課